

九州共立大学

スポーツ学部

令和 2 年度

カリキュラムマップ

総合共通科目

(2019~2020 年度入学生)

学是 (学則第1条の2)	本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。		
スポーツ学部の人材養成及び教育研究上の目的等 (学則第3条の4)	スポーツ学部及びスポーツ学科は、学是「自律処行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする。	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー:DP)	本学は、学是「自律処行(自らを律することができる、自ら考えて判断し、責任を持って行動する)」を体現し、総合的な教養・特定専門分野に関する知識を身につけ、深い考察力を備えることを目指す。その実現のために、卒業認定・学位授与の方針(DP)を3つの領域(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性)から構成し、各課程を修め、目標を達成した学生に卒業を認定し、学位を授与する。 【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。 【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。 【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
		教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー:CP)	本学では、学生が大学の卒業認定・学位授与方針(DP)の目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。 【教育内容】 1. 総合共通科目は、「教養教育科目」、「キャリア教育科目」を中心に、現代社会を生き抜くために必要不可欠な幅広い教養、および基礎学力等を体系的に学べるように科目を配置する。2. 専門教育科目は、各学部・学科の専門的知識を修得するために、基礎的内容から応用・発展的な内容まで体系的に学べるように科目を配置する。また、学問領域を超えた学際的な知識修得科目を配置する。 【教育方法】 1. 学生の主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)が実現されるように、双方向的・学生参加型授業、課題解決型授業などの多様な授業形態を取り入れた教育方法を実施する。2. 学外実習等を通じて体験的な学修活動を実施する。 【教育評価】 1. 各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価方法に従い単位を付与する。2. 学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たすことを含め、総合的に評価する。

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
総合共通科目	福原学	1・前	学校法人福原学園九州共立大学のスポーツ学部に学ぶ学生の一人ひとりが、将来に対する夢を実現しようと進んでいく上で、創設者である福原軍造先生の建学の精神を理解する。そしてこれから社会に向かって大いなる夢と希望を持ち、強く逞しく生きる力を涵養することを目的とする。	①福原学園の歴史や建学の精神を理解する。②九州共立大学スポーツ学部の設置とその理念を知る。③卒業生から見える「学生生活」を知る。	◎	○	◎
総合共通科目	ことばと日本文化	1-2・前後	本講義では、「ことば」について取り上げ、それらが織りなす日本文化について考えることを目的とする。神話や昔話、万葉集などの古典作品や、マンガやアニメ、テレビドラマを対象とする。言語学的考察はもちろん、民俗学、社会学、国文学など多角的に考察し、日本文化について掘り下げる。グローバル化社会、多文化社会の現代において、他の文化を知ることは勿論のこと、我々の文化について自覚的でなければならぬ。身近な「ことば」や作品を通じ、受講生自身が日本文化とは何かを見つめ直すことを毎回の課題とする。	・日本文化の諸分野に対する造詣を深めることができる。・日本文化について説明することができる。・作品内部の「ことば」を読み解き、自分で解釈することができる。・慣用句を文化の一事象として理解することができる。	◎	○	○
総合共通科目	ことばと日本文化	1-2・前後	遠藤周作は、その作品を通して、日本人とキリスト教との関わりを生涯追求した作家です。人生の意味をあたかく誠実に問う作風は、今もなお多くの読者に親しまれています。また遠藤文学は、代表作『沈黙』のハリウッド映画化、長崎・天草の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録などにより、近年ふたたび注目され世界的評価も高まっています。この授業では、人間の弱さや苦しみに共感の眼差しを向ける遠藤文学の特徴やテーマについて学び、作品の現代社会における意義を考えていきます。	1)日本文化の諸分野に対する造詣を深めることができる。2)文学作品を通して「かくれ切支丹(キリシタン)」の歴史を知り、価値観の多様性や異文化との共生に対する視点を養うことができる。3)ことばによる芸術的表現を通して、現代日本人にとって「信じる」こととは何かを考え、理解することができる。	◎	○	○
総合共通科目	ことばと日本文化	1-2・前後	上代の文学から『古事記』『万葉集』を取り上げ、日本の伝統的な詩形である歌(歌謡・和歌・短歌)を講読する。上代は、口誦によって伝えられてきた神話や歌謡などが、『古事記』等に定着する時代である。『古事記』は、単に現存するわが国最古の歴史書という位置づけばかりでなく、その後の文学作品に影響を与えた点においても重要である。現存最古の歌集『万葉集』も同様である。本講義では、上代から現在に至るまで行われている歌とおして、日本文化を考える視点を提示することを一つの目的とする。	・日本の伝統文化に対する造詣を深めることができる。・文学作品に描かれた人物・情景・心情の表現とその効果を読みとることができる。・文学作品と人間・社会・自然との関係性を理解することができる。・上代文学に関する基本的な知識を得ることができる。・小倉百人一首に関する基本的な知識を得ることができる。	◎	○	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
総合 共通 科目	ことばと日本文化	1-2・ 前後	本講義では、明治時代以前における日本古典籍について、とくに江戸時代の文学を中心に取り上げる。江戸時代の文学は、『源氏物語』や『伊勢物語』といった伝統的な物語からの影響を大いに受けながら、一方で仮名草子や読本といった、江戸時代になって新たに生まれたジャンルも存する、多種多様なものであった。本講義では、そうした豊富な江戸時代の文学を通して日本文化に対する学生の理解を深めることを目的とする。また「くずし字」(変体仮名)の読解指導も講義内において行うことで、学生が日本文化を理解する際の一助としたい。	・日本文化の諸分野に対する造詣を深めることができる。・日本古典籍や「くずし字」について、基礎的な知識や読解能力を身につけることができる。・江戸時代の文学について、その特徴を理解することができる。	◎	○	○
総合 共通 科目	スポーツの文化	1-2・ 前	2020年の東京オリンピックを契機に、国内でもスポーツの気運が高まっている。平成23年に改正されたスポーツ基本法の前文では文化としてのスポーツも強調されている。しかし一方では、ハラスメントの問題などがメディアなどで取り上げられるようになり、その影響が社会を賑わせてもいる。改めて、スポーツは人間と社会にとってどのような意味を持つのか、理解を深めていくことが問われている。本授業では、スポーツの概念や歴史を踏まえ、現代におけるスポーツのとらえ方(フェアプレイやスポーツマンシップなど)を学ぶ。	1. スポーツの歴史的な背景を学び、文化としてのとらえ方を理解する2. 我が国における、スポーツの歴史を学び、現代におけるスポーツのあり方を議論できる3. 今後の生涯スポーツのあり方について、提案できる能力を身につける	○	◎	○
総合 共通 科目	ことばと異文化	1-2・ 前	交通網の発達で海外の国々が身近になった現在、21世紀を生きる皆さんにとって外国の文化を知ることは大切なことです。この講義では、英語圏の国の中でも、特に、イギリスに焦点をあて、イギリス文化を説明して行きます。講義では、イギリス文化関係の専門書を用いて、イギリスの位置、気候からイギリスの繁栄の歴史などまで説明します。時間が許せば、テーマ毎に学生の皆さんにグループ発表をして貰うこともあります。	英語圏の文化を学ぶことによって、国際社会で生きて行くことが可能な教養を身につけ、国際情勢に敏感な意識を持つことができるようになる。	◎	◎	○
総合 共通 科目	ことばと異文化	1-2・ 前後	アメリカは超大国として今なお軍事や経済など、様々な面で世界に多大な影響を及ぼしている。日本とアメリカの間でも時に協力し合い、時に批判し合っておりその例外ではない。しかし、アメリカは決して建国の当初から強大な国ではなかった。第1～9回目では、時系列順にアメリカ成立以降の道程を文学作品や映画を通して説明する。第10～14回目では、それぞれテーマを絞り、アメリカにおける様々な問題を学ぶ。	①歴史を学ぶことで、アメリカという国を具体的に、客観的に知ることができる。②文学作品や映画を通してアメリカの文化に触れ、理解することができる。③アメリカにおける諸問題を学び、多文化共生に必要な視点を持つことができる。	◎	◎	
総合 共通 科目	ことばと異文化	1-2・ 後	中国の古典小説『三国志演義』は名言の宝庫と言ってもよい。「三顧の礼」をはじめ、世に知られた名句も多い。この講義では、『三国志演義』にまつわる名句を学習しながら、小説における虚実の組み合わせや英雄豪傑の人物像を理解する。具体的に、「桃園の誓い」や「三顧の礼」「赤壁の戦い」などの名場面を中心に、DVD映像を鑑賞しながら、パワーポイントと配布資料を通して勉強を進めていく。	中国のことばと文化に興味を持ち、三国志物語の面白さを知る。また、中国の社会や文化、及び人々の考え方をより深く理解できる。さらに、学習を通して得られる世界についての情報を深く理解し、現代の日本社会について広い視野から考えられるようになる。	◎	◎	○
総合 共通 科目	ことばと異文化	1-2・ 後	「異文化」がもつばら「外国」や「外国人」との連関で認識されることには一定の批判を向けたとしても、「グローバル化」「ポータル化」が一般化した時代を生きる今日の私たちは、日常的に「異文化」の存在を強烈に意識させられています。そうした状況下では多様性の共生が求められる一方で、現実には自らの価値観から外れる他者を排斥する傾向も顕在化しています。本講義では、主にヨーロッパを対象として、歴史、政治、文化的背景などの多様な観点と関連づけながら、「異文化」というテーマに多角的にアプローチします。	1. 「異文化」に対する既存のイメージと現実のギャップを客観化することができる。2. 「文化」を形成する諸要素を認識し分析的に理解することができる。3. 「異文化」間の相互理解のための有効な切り口を見だし、他者への寛容性につなげることができる。	◎	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
総合 共通 科目	情報文化論	1-2・ 後	犬も歩けば人工知能が乱舞する時代に、我々の知的生命体としての存在価値が問われている。本講義は、人工知能と情報技術の基礎を論じ、対比的に人間の思考の特性を論じる。講義の後半においては最先端の人工知能研究を紹介しつつ、人工知能とは何か、今後の知能研究の進む道を紹介する。同時に、アフォーダンスを中心として環境に埋め込まれた知性、身体性の重要性を論じる。	①記憶とデータを基軸概念として機械の情報処理の特性を、人間の思考と対比的に説明できる②表象と記号を基軸概念として、人間の思考の特性を機械の情報処理と対比的に説明できる③人工知能の先端的システムとその内包する課題を理解できる	◎	○	
総合 共通 科目	歴史と国際情勢	1-2・ 前後	政治と国際問題を理解するために、国家とは何か、また、それはどのような政治的営みを行うか、国家以外にはどのような国際関係の主体があるかを明らかにする。また、国際関係論の主要な理論(リアリズム、リベラリズム等)に触れ、それらの理論の出現に大きな影響を与えた第一次世界大戦等の歴史について学習する。現代の国際的な課題についても学習する。政治と国際問題に対する基礎的な知識と能動的な思考能力を身につけることを目指す。	1. 国家をはじめとした国際政治の行為主体(アクター)についての基礎知識を身につけることができる。2. 国際政治に対する基本的な見方・理論を把握することができる。3. 国際政治の歴史および現状についての理解を深めることができる。	◎	○	
総合 共通 科目	現代国家と法 (日本国憲法)	1-2・ 前後	「憲法とは何か」「現代社会において憲法はどのような重要性を持つのか」「人権にはいかなるものがあるのか」「国家のあり方に関する基本原理やルールとは」こうした基本的問題について解説してゆく。全体の構成としては、まず憲法とは何かについて概説した後、前半部では人権に関する項目、後半部では統治機構に関する項目を主題として講義を行う。	〔1〕憲法が現代社会や国民の生活においてどのような意味を持つのか説明できる。〔2〕人権および憲法に関する諸問題について学び、社会現象と関連づけて思考できる。〔3〕憲法に規定されている統治機構とその原理について説明できる。	◎	○	○
総合 共通 科目	暮らしと経済	1-2・ 前後	インセンティブ、需要と供給、機会費用、消費者物価指数、経済成長率、所得再分配、GDP、量的緩和、マイナス金利、比較優位、消費税率上げ、デフレーション、自由貿易等といった新聞やビジネス書によく出てくる「わかっていないようで、実はわかっている」用語やわかりにくい経済の理論や概念をやさしい言葉で解説する。また、できるだけ我々の日々の暮らしと生活に関係が深いテーマなどを通じて実社会の仕組みを理解し、より高度な経済学分野の専門知識の習得への橋渡しとするべく、基礎知識(リテラシー)を固めさせる計画である。	テキストにあるイラスト+簡単な説明で、経済の仕組みに明るい学生になることができる。また、「身の回りにこういう事象があったな」と学生諸君の日々の暮らしに身近な事例の経済的な背景を理解することができる。さらに、一歩進んで、恋愛、就職、結婚、出産など人生の各ターニングポイントにおいて、どうしたらいいかを考え、最善の選択をするような経済的な知恵を身につけることができる。	◎	○	○
総合 共通 科目	暮らしと経済	1-2・ 前後	2つのテーマを扱う。①平穏な暮らしを送るためには、経済の安定は欠かせない。中でも日常生活に大きな影響を与えるのは、雇用と所得だから、国は「経済政策」を展開することで、より良い状態に近づけようとしている。そこで、こうした財政・金融政策が、どのような脈絡をたどって、最終的に雇用の創出や収入の増加に結びつくのか、について考察する。②グローバル化と、特に急速な人口減少が、経済と社会にどんな影響をもたらすかを、雇用・税・社会保障の3つの領域を素材に考察する。	① 財政政策と金融政策の意義・効果・特徴を理解する。② 財・貨幣・労働の3つの市場の内容・相互関係を説明できるようになる。③ 人口減少の原因と影響を理解する。④ 雇用・年金・税等、将来社会人として生活していく上で必要な基本常識を身につける。	◎	○	
総合 共通 科目	人権・同和教育	1-2・ 前	本授業は人権の歴史と現状を学びながら知識を深めるとともに、主体的に日常生活のなかに潜むさまざまな人権問題に気づき、問題を問題として見抜く感覚を身につけることを目標とする。個人的問題であるように見えるものは社会的問題でもある。差別や偏見などで苦しむ人びとの心の痛みに共感し分かち合い、多様な価値観を受け入れ、互いを尊重する社会の担い手となることをめざす。	1)人権に関する知識を深めることができる。2)人権感覚を身につけることができる。3)社会における事象を人権という視点から考えることができる。4)自己の考えを文章で表現することができる。5)批判的・論理的思考力を身につけることができる。	◎	○	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
総合共通科目	人権・同和教育	1-2・後	本授業は人権の歴史と現状を学びながら知識を深めるとともに、主体的に日常生活のなかに潜むさまざまな人権問題に気づき、問題を問題として見抜く感覚を身につけることを目標とする。個人的問題であるように見えるものは社会的問題でもある。差別や偏見などで苦しむ人びとの心の痛みに共感し分かち合い、多様な価値観を受け入れ、互いを尊重する社会の担い手となることをめざす。	1)人権に関する知識を深めることができる。2)人権感覚を身につけることができる。3)社会における事象を人権という視点から考えることができる。4)自己の考えを文章で表現することができる。5)批判的・論理的思考力を身につけることができる。	◎	○	◎
総合共通科目	人間と哲学	1-2・前	たとえば、「自分が見ている世界と、他人が見ている世界は同じだろうか」と問われたら、あなたはどのようにこたえるだろうか。世界はすでに存在しているので、同じものを見ているはずだとこたえるだろうか、それとも、すでに存在する世界を感じるのはひとそれぞれなので違うものを見ているとこたえるだろうか、それとも、世界はあらかじめ存在しているのではなく、自分が見たい世界を見ているのだとこたえるだろうか。本講義では、この世界を人はどう捉えているのかを、さまざまな哲学者の考えを学びながら、考えていく。	第一に、各哲学者の言葉や文脈を理解し、それを自分の言葉で説明することができる。第二に、各哲学者の考える世界と人間との関係を自分の問題として引き受け、考えることができる。第三に、習得した知識を用いて、世界を知るとはどういうことか自分なりに考えることができ、自分や他者の生きる世界を主体的に生きる姿勢を身につけることができる。	○	◎	
総合共通科目	人間と哲学	1-2・後	先が不安だといわれる現代社会において、自分らしく生きていくためにはどうすればよいのだろうか。現実と理想のはざままで、私が私らしくあるためにはどうすればよいのだろうか。本講義では、「私」への問いを投げかける哲学を学習しながら、自分で自分を見つめ、自分なりに「私」という存在のあり方や意味を問う姿勢を獲得していく。	第一に、各哲学者が語る言葉や文脈を理解し、それを自分の言葉で説明することができる。第二に、各哲学者の抱えている「私」に関する問題を、現代に生きる自分の問題として引き受け、論理的に考えることができる。第三に、習得した知識を使って、現代の課題を検討し、現代に生きる自分のあり方を見出し、社会の中で主体的に生きる姿勢を身につけることができる。	○	◎	
総合共通科目	生命と地球	1-2・前後	この講義であなたは壮大な地球の歴史を学ぶことができる。なぜ、ほ乳類は母親のお腹から産まれるようになったのか？なぜ人類は2足歩行を始めたのか？北米大陸の先住民と日本人の顔・姿が似ているのはなぜか？最新の研究によって明らかになった46億年にわたる地球の歴史とそれに伴う生物の進化を学ぶ。70億人を超える人類は、たった35人の母親から始まったことはあまり知られていない。授業では、美しいコンピュータグラフィックスを駆使したを学術的番組を視聴しながら学ぶ。	①地球環境の激変によって生物の進化が促されたことが説明できる。②地球の自然環境の成り立ちと、現在の自然環境の問題点を理解できる。③進化における必要条件が理解できる。	○	○	◎
総合共通科目	生命と地球	1-2・後	地球で暮らす我々人類は、衣・食・住や病気に対し科学技術を発展させ向き合ってきた。これまで学んできた数学や理科は、人類の科学技術の一部をまとめた(体系化)ものである。この科目では人類を中心にして「生命と地球」をテーマに科学技術の歴史と活用を、幅広い教養としての視点で振り返る。同時に、数学や理科の発展を歴史から学び、環境や社会が抱える問題を再認識する。教養として、私たちの生活と自然科学の関わりを学ぶ。	①生命の進化と人類の発展を中心に、歴史的な関係性を理解する②科学技術と数学や理科の関わりを理解して、普段の問題解決に活用する③自然科学に関する教養を学び、状況判断に活用する	◎	○	○
総合共通科目	心の科学	1-2・前後	心理学は人間の思考や感情や行動、さらに人間関係などについて科学的に捉えるものである。この授業では心理学全般についての基礎的な知識について概説する。特に日常的なテーマや身近な問題に関して心理学的視点による解説をおこない、自己理解と他者理解を深めるための土台となる知識や考え方についての授業をおこなう。カウンセリングやメンタルヘルスに関して実務経験に基づいて具体的に説明する。	・心理学の基本的な視点について理解し、人間の心や行動について説明することができる・心理学的知見を習得し自己理解や自己決定をするために活用することができる・グループディスカッションなどを通して自分の意見を表現するとともに他者の考え方を柔軟に受け入れ尊重することができるようになる	◎	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み合わせ、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一端として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
総合 共通 科目	共生社会を生きる	1-2・ 前後	地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて繋がることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を目指すものである。本講義では、協同教育とSDGsを根幹においた授業デザインで、防災・減災、社会のマイノリティや地域が抱える社会課題をテーマに講義を行い、身近な課題に気づく力、その課題を「自分ごと」として捉え、柔軟な思考力をもって、仲間と一丸となって探求し、解決する力を養う。	・「共生」について理解し、社会の構成員として社会に貢献することができる。・他者とコミュニケーションをとり、協調することができる。・多種多様な考えを受け入れる姿勢を育て、他人ごとを自分ごととして捉えることができる。・柔軟な判断力と決断力をもって、自助・共助・公助のリーダーシップやフォローシップをとることができる。	○	◎	◎
総合 共通 科目	日本語表現法Ⅰ	1・前 後	大学生になると、自分の考えを文章で表現する機会が増えます。試験で自分の考えを述べる問題に解答したり、レポートを作成したりします。そのため日本語表現の基礎となる語彙や文法、表記に関する知識を身につける必要があります。また社会では状況に応じた表現能力が求められ、適切な敬語の使い方やEメールの書き方などを知っておくことが必須となります。日本語表現法Ⅰでは、これらの知識・技能の習得を目指します。毎回の授業では、授業内容をふまえたワークシートに取り組み、知識の定着を図ります。	・わかりやすい文章表現に必要な語彙・文法の知識を身につけることができる。・授業で得た知識を活かして、説得力のあるレポートを書くことができる。	◎	○	
総合 共通 科目	日本語表現法Ⅱ	2・前 後	日本語表現法Ⅱでは、日本語表現法Ⅰで身につけた基本的な知識を発展させて、書くこと・話すことに関するより実践的な日本語運用能力の習得を目指します。資料の検索の仕方、レジュメの作り方、プレゼンテーションの行い方、またレポートの書き方など大学生活で必要とされる技術について学びます。さらに、小論文やエントリーシートの書き方といった就職活動で求められるスキルを身につけ、敬語でコミュニケーションする力など日本語運用に関する社会人基礎力を養います。毎回の授業では、ワークシートに取り組み、知識の定着を図ります。	・必要な資料を検索することができる。・レジュメを作成してプレゼンテーションを行うことができる。・レポートを書くことができる。・小論文やエントリーシートなど就職活動に必要な文書を書くことができる。・社会人として適切なコミュニケーションができる。	◎	○	
総合 共通 科目	伝わる文章力	2・前 後	社会人に必要な文章理解力、文章表現力を身につけることを目的とする。具体的には、資料や文章を正確に理解する力(読解力)、手紙文を作成する力、説得力のあるわかりやすい文章を作成する力(表現力)である。この力を身につけるためには、高校卒業程度の漢字の読み書きはもちろん、熟語を理解し、正しい敬語を使用する力も必要となる。また文章を要約することも求められる。文章検定3級のテキスト等を用いながら授業を進め、社会人としての「文章力」を高めていく。	・漢字検定2級レベルの漢字の読み書きができ、基本的な語彙が理解できる。・文章から情報を正しく読み取ることができる。・説得力のあるわかりやすい文章を作成することができる。・手紙文の構成を理解し、正しい敬語を使って、手紙文(お礼状)を作成することができる。	◎	○	
総合 共通 科目	英語Ⅰ	1・前	将来のキャリア形成に向けて、大学では就職試験やTOEICなどに対応し得る、より質の高い英語力が求められますが、英語力向上のためには基礎固めはいつの時点でも必要不可欠です。本科目では、英語において最も重要な動詞を中心として主要文法項目を復修し、それらの文法項目から成るシンプルな英文を読む、聞く、話す、書くという4技能のバランスのとれた向上を目指します。	①簡単な説明文を理解することができる。②日常生活の簡単な話題や平易な説明・指示を聞いて理解することができる。③日常生活に関する簡単な応答や意思表示をすることができる。④興味・関心のあることについて簡単な英文を書くことができる。⑤全体として、CEFR-J A1.3程度の到達度を目指す。	◎	◎	○
総合 共通 科目	英語Ⅰ(再履修用)	1-2・ 後	本科目では、英語の基礎力を完全に身につけることを目標とします。基礎英文法を徹底的に学習し、様々な練習問題を解いていきます。語彙力の強化と理解度アップのために、毎回予修として、単語の意味調べや練習問題の解答を行ってくる。また、授業の始めには、前回の学習内容をおさらいする小テストを実施します。その対策をした上で、授業に臨むこと。	①テキストに出てくる単語の意味を正しく理解することができる。②テキストに出てくる英文を完全に理解することができる。③テキストに出てくる文法事項を正しく理解し、運用できる。④授業で学習した内容について、60%の正答率をもって答えることができる。	◎	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み合わせ、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
総合共通科目	英語Ⅱ	1・後	将来のキャリア形成に向けて、大学では就職試験やTOEICなどに対応し得る、より質の高い英語力が求められますが、英語力向上のためには基礎固めはいつの時点でも必要不可欠です。本科目では、英語において最も重要な動詞を中心として主要文法項目を復修し、それらの文法項目から成るシンプルな英文を読む、聞く、話す、書くという4技能のバランスのとれた向上を目指します。	①簡単な説明文を理解することができる。②日常生活の簡単な話題や平易な説明・指示を聞いて理解することができる。③日常生活に関する簡単な応答や意思表示をすることができる。④興味・関心のあることについて簡単な英文を書くことができる。⑤全体として、CEFR-J A1.3程度の到達度を目指す。	◎	◎	○
総合共通科目	英語Ⅱ〈再履修用〉	2・前	本科目では、英語の基礎力を完全に身につけることを目標とします。基礎英文法を徹底的に学習し、様々な練習問題を解いていきます。語彙力の強化と理解度アップのために、毎回予修として、単語の意味調べや練習問題の解答を行っていただくこと。また、授業の始めには、前回の学習内容をおさらいする小テストを実施します。その対策をした上で、授業に臨むこと。	①テキストに出てくる単語の意味を正しく理解することができる。②テキストに出てくる英文を完全に理解することができる。③テキストに出てくる文法事項を正しく理解し、運用できる。④授業で学習した内容について、60%の正答率をもって答えることができる。	◎	◎	○
総合共通科目	英語コミュニケーションⅠ	2・前	英語ⅠおよびⅡで固めた基礎力を土台にして、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しつつ、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに涵養することを目指します。アクティブラーニングとして、発話練習、テキストで学んだ短話の実践なども行います。英語圏諸国の基本的文化理解も、授業時間中に適宜行います。	日常的に使われる英文や英語表現をスムーズに発音することができ、基本的な英語での質問に回答でき、テキストで学習した内容・パターンに似た短い英語会話を展開することができる。英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。授業で学習した問題において、得点の60%程度の取得を目指す。	◎	◎	○
総合共通科目	英語コミュニケーションⅡ	2・後	英語ⅠおよびⅡで固めた基礎力を土台にして、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しつつ、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに涵養することを目指します。アクティブラーニングとして、発話練習、テキストで学んだ短話の実践なども行います。英語圏諸国の基本的文化理解も、授業時間中に適宜行います。	日常的に使われる英文や英語表現をスムーズに発音することができ、基本的な英語での質問に回答でき、テキストで学習した内容・パターンに似た短い英語会話を展開することができる。英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。授業で学習した問題において、得点の60%程度の取得を目指す。	◎	◎	○
総合共通科目	TOEIC入門	1・前後	本科目では、英語Ⅰまたは英語Ⅱと同時進行で、TOEICに挑戦するために必要な基礎英語力を養いながら、TOEIC受験対策を実践的にを行います。リスニングではPart 1(写真描写問題)とPart 2(応答問題)に頻出する英語表現とそれらの回答方法に馴れること、リーディングではPart 5(文法)に頻出する基本的な文法事項の回答方法に慣れることに、それぞれ重点を置いて学習します。	①学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestおよびTOEIC Listening & Reading IP Testを受験し、TOEICの出題形式に慣れる。②授業で学習したリーディング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。③授業で学習したリスニング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。④TOEIC Listening & Reading IP Testでは350点程度のスコア獲得を目標とする。	◎	◎	○
総合共通科目	ドイツ語Ⅰ	1・前	新しい外国語にチャレンジする皆さんが、基本的なドイツ語の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようになることを目指します。受講生の皆さんが、テキスト内の日常の会話シーンにひとつずつ触れながら文法体系を段階的に学習し、この新しい言語に自然に慣れ親しんでいくことができるように、簡単な会話パターンの練習や詳細な文法の説明をおこなった授業となります。ほとんどがローマ字読みで発音できる、新たに始めるのに最適なドイツ語を、一緒に学んでいきましょう。	ドイツ語Ⅰ、Ⅱでは、実際に使える基礎的言語能力(基本的なドイツ語の仕組みが理解でき、簡単な日常会話ができる)の獲得を目指します。ドイツ語Ⅰの目標は以下の4点です。1.ドイツ語の正確な発音ができる。2.主語に従った動詞の現在人称変化ができる。3.名詞の文法上の性別を理解し、定冠詞及び不定冠詞を用いてその区別ができる。4.既習のドイツ語運用能力の範囲で他者とのコミュニケーションが図れ、その体験を通して世界情勢にも目を向ける意識を高め、他者を思いやり、他者と共に生きる力を獲得することができる。		◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
総合 共通 科目	ドイツ語Ⅱ	1・後	大学生になってドイツ語にチャレンジした皆さんは、これまでの授業ですでにドイツ語の基本が身につけ始めているはずですが、これからは、テキスト内の日常の会話シーンにひとつずつ触れながら文法体系を段階的に学習し、この新しい言語に自然に慣れ親しんでいくことができるように、簡単な会話パターンの練習や詳細な文法の説明をおこなった授業となりますが、徐々に難しい事項も学びますので、さらに頑張ってください。	ドイツ語Ⅰ、Ⅱでは、実際に使える基礎的言語能力(基本的なドイツ語の仕組みが理解でき、簡単な日常会話ができる)の獲得を目指します。ドイツ語Ⅱの目標は以下の4点です。1.名詞の格の概念を理解し、冠詞を用いて格変化させ、実際の文中で使用できる。2.特殊な現在人称変化を理解し、命令文とともに実際に使用できる。3.基本的な前置詞の意味と格支配を理解し、実際に使用できる。4.既習のドイツ語運用能力の範囲で他者とのコミュニケーションが図れ、世界情勢に目を向け、他者を思いやり他者と共生する力を獲得することができる。		◎	○
総合 共通 科目	中国語Ⅰ	1・前	この授業では、日常の表現を中心とした会話教材を使用し、発音と聞き取りの訓練を行うことによって、中国語発音の基礎と初歩的な文法を学習する。初めて習う外国語なので、あまり難しく考えず、教科書を暗誦できるくらいにじっくり練習する。	中国語の発音と文法の基礎的な知識を習得し、挨拶や簡単な日常会話ができる。また、中国語学習を通して、中国の文化をより深く理解できる。	◎	○	○
総合 共通 科目	中国語Ⅱ	1・後	この授業では、日常の表現を中心とした会話教材を使用し、発音と聞き取りの訓練を行うことによって、中国語発音の基礎と初歩的な文法を学習する。初めて習う外国語なので、あまり難しく考えず、教科書を暗誦できるくらいにじっくり練習する。	中国語の発音と文法の基礎的な知識を習得し、挨拶や簡単な日常会話ができる。また、中国語学習を通して、中国の文化をより深く理解できる。	◎	○	○
総合 共通 科目	韓国語Ⅰ	1・前	本講義では、初めて韓国語を学ぶ受講生を対象に韓国語の「基本文字」と「正確な発音」の習得を目指します。そのためには韓国語の仕組みについての理解も求められます。「韓国語Ⅰ」では、文字を覚えて発音ができるまで、つまり文字を正確に読める事、正しく書ける事に重点を置きながらすすめていきます。韓国語と日本語は似ている部分も多いため学習し易いと云われていますが、初学習者にとっては、決して容易であるとは言えないです。授業中の繰り返しの練習を通じて、是非「韓国語」を習得してください。	1. 韓国語の文字と発音の学習－基本文字が書けて、正確な発音で読める。2. 単語の発音ができる。3. 基本的な挨拶が話せる－簡単な決まり文句や挨拶ができる。	◎	○	○
総合 共通 科目	韓国語Ⅱ	1・後	本授業は、基本的には前期の続きとして進めていきます。基本文字の正確な発音や単語の読み書きを中心に学習した「韓国語Ⅰ」からレベルアップし、基礎的な文法の学習、短い文章の読み、さらに自己紹介や日常会話など、より実践的な内容を学びます。そのためには、宿題や予修・復修を欠かさずこなすことも必要になります。楽しく学習できるよう受講生皆さんの積極的な参加を求めます。時折、韓国文化についても触れていきます。本講義を通じて隣国の言葉や文化に関する知識や理解を深めてほしい。	1. 文字を正確に書くことができる。2. 正しい発音で短文をゆっくり読むことができる。3. 自己紹介と簡単な会話表現ができる。	◎	○	○
総合 共通 科目	イングリッシュ・ワークショップ	1・後 期中 中	英語でのプレゼンテーション能力はグローバル化する現代社会において必要なスキルの1つです。本科目では、英語のコミュニケーション・プレゼンテーション能力を磨くために、ネイティブスピーカーを中心とした集中講義の形式で、英語のみを使用して様々なトピックでのトークやアクティビティを行い、学生自身の英語でアウトプットを積極的に促す授業を展開します。	CEFR-J A2.1(やりとり・発表)程度の到達度を目指します。具体的には、下記の通りです。1. 基本情報を伝え、簡単な意見交換ができる。2. 簡単な語句や文を使って、身近なトピックについて短い話をする事ができる。	○	○	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
総合共通科目	海外研修	全・集中	この科目は国際交流・留学生支援室が募集する、短期海外研修プログラムに参加した学生に単位が与えられる科目です。英語や韓国語など、各協定校における語学研修プログラムを受講し言語運用能力の向上を目指します。各協定校における語学研修プログラムでは、文法・聴解・読解・会話など、言語運用能力を向上させる4技能を、それぞれの協定校における手法で学習していきます。また、海外での学習だけでなく、その土地の文化を体験し、国際人としての教養を深めることを目指します。	①短期海外研修プログラムを通して、積極的に語学学習に取り組む姿勢を身につける。②短期海外研修プログラムを通して、その土地の文化を理解することができる。	◎	○	◎
総合共通科目	情報処理演習Ⅰ	1・前	インターネットやコンピュータを利活用することは現代社会においては必要不可欠であり、それらを用いて情報収集・整理を行い、考えを主張していくことが社会人として身につけておく要素のひとつである。本科目はパソコンを実際に操作しながら初歩的なワードプロセッサや表計算・図形描画・電子メール・情報検索などを演習形式で繰り返し操作しながら体得していき、身近な情報機器を積極的に利用できるようにしていく。また、本学の情報処理施設の利用法を学ぶ最初の機会でもある。特殊な操作もあるがしっかりと習得していく。	1. コンピュータの基礎用語を理解し、基本的な利用方法を習得し説明できる。2. 簡単なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。3. コンピュータを積極的に利用し、日常生活に活用できる。4. インターネットを活用し、容易に情報を収集できる。	◎	◎	◎
総合共通科目	情報処理演習Ⅱ	1・後	前期に行った情報処理演習Ⅰから発展する形で、文書作成・表計算・プレゼンテーション資料作成の技量を高めていく。その流れの中で数学的基礎知識(主として統計学)や芸術的センスのイロハ(レイアウトや色彩感覚など)も踏まえた内容を学んでいく。キー入力速度についても技能向上を求めていく。コンピュータ用語としての英語も含まれて来るので、しっかりと理解し体得していく。情報処理演習Ⅰで行った内容は既に理解し実践できるという前提で物事が進んでいくので、過去の内容の「きちんとした振り返り」が必要となる。	1. コンピュータの基礎用語を理解し、基本的な利用方法を習得し説明できる。2. 簡単なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。3. コンピュータを積極的に利用し、日常生活に活用できる。4. インターネットを活用し、容易に情報を収集でき、その価値や真偽の判断を実践できる。	◎	◎	◎
総合共通科目	情報処理演習Ⅲ	2・前	インターネットやコンピュータを利用することは、現代社会においては必要不可欠であり、それらを用いて情報収集を行い、自分自身をアピールすることは社会人として身につけておく必要があります。本授業ではパソコンを実際に操作しながら、情報処理演習Ⅰ、Ⅱを基礎にワード、エクセル、プレゼンテーション、情報検索、統計処理などを演習形式で体得し、さらに理解を深め、応用力を高めることを目標としています。このように発展的なパソコンの使用能力を身に付けるために、最低限、Ⅰ、Ⅱのどちらかの単位は修得しておく必要があります。	1. コンピュータの使用法を理解し、発展的な利用法を習得し他者に説明できる。2. 複合的なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。3. コンピュータを積極的に利用し、日常生活に活用できる。4. インターネットを活用し容易に情報を習得できる。	◎	○	◎
総合共通科目	情報処理演習Ⅳ	2・後	インターネットやコンピュータを利用することは、現代社会においては必要不可欠であり、それらを用いて情報収集を行い、自分自身をアピールすることは社会人として身につけておく必要があります。本授業ではパソコンを実際に操作しながら、情報処理演習Ⅰ、Ⅱを基礎にワード、エクセル、プレゼンテーション、情報検索、統計処理などを演習形式で体得し、さらに理解を深め、応用力を高めることを目標としています。このように発展的なパソコンの使用能力を身に付けるために、最低限、Ⅰ、Ⅱのどちらかの単位は修得しておく必要があります。	1. コンピュータの使用法を理解し、発展的な利用法を習得し他者に説明できる。2. 複合的なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。3. コンピュータを積極的に利用し、日常生活に活用できる。4. インターネットを活用し容易に情報を習得できる。	◎	○	◎
総合共通科目	職業とコミュニケーション	1・後	本学卒業後の進路(職業選択等)に向けて、大学では何を学び、どのような大学生活を過ごすのか、そしてどういう人生を送りたいのかについて考える。様々な分野、業種で活躍している学外の講師の話を聴き、社会での行き方や働くことの意義を考える。また、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、働く上での「コミュニケーションの重要性」を理解する。	職業について考えることができる。働く上での「コミュニケーションの重要性」を知る(会話力だけではなく)ことができる。卒業生から見える「職業選択のあり方」を知ることができる。	◎	○	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み合わせ、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。
総合共通科目	キャリアデザインⅠ	2・通 年後 期	この授業では、大学から社会へ出るための準備を行います。①受講者の個性を適性検査で再認識し、社会に貢献する方法を考える ②本学先輩から就職活動に関する体験談を聴き、社会に出るための情報を整理します ③インターンシップや企業訪問に関するマナーや知識を身につけます ④就職試験を想定し、数学基礎に関する演習を実施します	①受講者が自身の将来像を描き、自己分析から自分自身を知る ②社会に関心を持ち、採用活動に関わる情報を取得できる ③採用活動に関するスケジュールを理解し、現在、どんな活動ができるか理解する ④採用試験で問われる数学の実力を理解し、一般的な正答率まで引き上げる	◎	○	○
総合共通科目	キャリアデザインⅠ (再履修用)	3-4・ 通年	この授業では、社会を理解し、職業人としての意識付けを明確にするために、仕事・就職を中心に将来の自分の姿を思い描き、社会人としての満足について説明します。また、グループワークに取り組み、プレゼンテーション能力の向上を目指します。自分の職業に対する適性について詳しく分析する就職活動へ向けた準備を進めます。さらに、インターンシップへの参加の準備も支援します。	1) 将来に向け、充実した大学生活を送るための基礎づくりができるようになる。2) 問題発見・解決、提案(コミュニケーション)、実行などの就業力を身につけることができる。3) 自己分析を通じた自己理解能力を身につけることができる。4) 働く意味の認識でき、将来計画を立てる能力を身につけることができる。5) 参加型授業による自己認識と学校だけでは得られない職業観を身につけることができる。	◎	◎	○
総合共通科目	インターンシップ (企業研修)	2・集 中	本授業は、夏期(冬期・春期)期間中の3日～7日程度、希望する企業・事業所等で就業体験(インターンシップ)を行います。期間は実習先によって異なります。単にインターンシップに参加することが目的ではなく、就業体験を通じて働くことを軸とした価値形成を育み、大学在籍中に自らの将来の人生設計(キャリア開発)を描くための気づきを得ます。	①就業体験を通じて、実社会の経済活動がどのように動いているのか実態を把握する。②社会人として基本的なマナー、態度、スキル、知識を身につけることができる。③卒業後のキャリアについて「仕事」「働く」ことを具体的に検討することができる。	○		◎
総合共通科目	スキルアップ講座B 【TOEICⅠ】	2-3・ 前	TOEICのスコアは就職活動時に利するのみならず、社会人としての様々な場面でのキャリア形成にも非常に有効です。本科目では、TOEIC初級・中級者向けに、試験の特色を把握し、各パートの問題形式に慣れるため、重要な文法事項・語彙・語句で構成された比較的易しい問題を使って、実践的な受験対策を行います。また、学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestとTOEIC Listening & Reading IP Testの受験を目指します。	①学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestおよびTOEIC Listening & Reading IP Testを受験し、TOEICの出題形式に慣れる。②授業で学習したリーディング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。③授業で学習したリスニング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。④TOEIC Listening & Reading IP Testでは400点程度のスコア獲得を目標とする。	◎	◎	○
総合共通科目	スキルアップ講座C 【TOEICⅡ】	2-3・ 後	本科目では、スキルアップ講座Bに続き、TOEIC初級・中級者が各パートに必要な英語力をさらに高めるため、頻出する語彙・語句や文法知識を身につけるとともに、問題に対してより早く正確に解答するコツを身につける実践的な受験対策を行います。また、学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestとTOEIC Listening & Reading Testの受験を目指します。	①学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestおよびTOEIC Listening & Reading IP Testを受験し、TOEICの出題形式にさらに慣れる。②授業で学習したリーディング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。③授業で学習したリスニング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。④TOEIC Listening & Reading IP Testでは450点程度のスコア獲得を目標とする。	◎	◎	○